

仕合あせの和

第243号

令和4年6. 1
(毎月1日発行)

さかさ銀杏

いちよう

住職 谷川寛俊

真成寺・身延山団体参拝の折、必ずお寄りしています上澤寺(じょうたくじ)のご住職、上田本昌先生が過日93歳で天寿全うされました。私が身延山での修行時代の恩師でした。俳句(ホトトギス同人)の世界でも有名な方です。特に日蓮聖人について造詣の深い方で、著書も何冊も出版されています。



上沢寺 逆さ銀杏・お葉付銀杏



日蓮聖人が、文永11年(一、二七四)五月、初めて身延の御山に入られた当時、その周辺は山伏(やまぶし)の信仰が盛んでした。

身延山のふもとに上澤寺という真言宗の大きな寺院がありました。法喜阿闍梨(ほうきあじやり)という住職がおり、日蓮聖人がすぐ近くの身延山へ来られて法華経を弘められることを伝え聞き、内心あまり面白くない気持ちでいました。聖人が西谷にご草庵(そうあん)が出来るまでの間を利用して、近辺を布教しておられました。上澤寺の山伏は、近くにある小室山(こむろさん)の住職と相談して、聖人に法論、問答をいどみ、聖人を負かして身延の山から追い出そうと考えました。しかし、いざ法論を始めてみますと、とても聖人に勝つことが出来ず敗北してしまいます。内心穏やかでない山伏達は、聖人を亡き者にしようと、毒殺をこころみます。毒入りのぼた餅を作り、聖人に差し出しました。せつかく手作りのぼた餅だということで、聖人は喜んでこれを受け取られ、早速食べようと

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

されましたが、ふと庭を見ると、いつ現れたのか真白な犬が一匹、尾を振ってこちらを見えています。

そこで聖人は一つを分け与えたところ、たちまち苦しんで、その場に倒れ死んでしまったのです。

この様子をみていた山伏たちは、聖人の威徳(いとく)にうたれ、心から懺悔(さんげ)し、聖人の弟子にしてほしいと願い出しました。

大地に平伏して悔い改めている姿をご覧になった聖人は、お許しになり、小室山の山伏には「日伝」と言う名を、上澤寺の山伏には「日受」と言う名を授けられました。正式に直弟子となられ、二人の山伏は、それぞれの寺を日蓮宗に改めました。

上澤寺の山伏であった日受上人は、夢のお告げを頂き、「日蓮聖人の身替りになって倒れた白犬は普通の犬でなく、『法華経の行者』である聖人を法華経守護の諸天善神が、犬に身を変えてお救い申し上げたのである。」と悟り、白犬を自分の寺の境内で手厚く弔(むら)いました。

日蓮聖人も身替りとなって倒れた白犬であるというので、身延山からついてきた銀杏の杖を墓印に立てられ、更に白犬供養の塔婆をお書きになられて、供養されました。不思議なことに、墓印として立てた銀杏の杖は、次第に根を張り芽を出し、今日の大木に茂っていきました。

この銀杏は普通の銀杏と違う点がいくつかあります。その一つは枝葉が下へ向かって伸びているので

「さかさ銀杏」と称され又、葉の上(オハツキイチョウ)ともいわれています。この葉や実で諸病によく効くお薬が作れるという事から、別名を

「毒消し銀杏」とも呼ばれています。昭和四年に国の特別史跡名勝天然記念物に指定されています。

三年前の台風で「根元から折れた」のニュースに枯死が懸念され、私達も心を痛めておりました。ところが、不思議なことに再び根元から葉を茂らせ実を付け出したのです。これも日蓮聖人の魂の込もった祈りと参拝される皆様の祈りの強さが、蘇生させたものと信じます。身延山へ参拝された折には、是非お参り下さる事をお勧めし、先生の増円妙道をお祈りいたします。

合掌

